古利根公園橋

身体のねじれによる美しさ、その微妙なリズムは、太陽光による明暗をも作品の一部としている。
作者は、1986年に脳梗塞に倒れ、右半身が不自由になりましたが、お亡くなりになる2002年まで、左手で創作を続けられました。

「茉莉花」作：舟越 保武

「思い出」
作：山本 正道

誰もが持っている、遠い記憶の中の風景。それを刻み付けている姿を、物静かなフォルムで表現した、心温まる作品。

木綿の生地と身体が織りなすシワの起伏が、呼吸しているようにも見えるこの作品。これ以外にもジーンズの女性を20体ほど彫刻にしてきた作者は、当時の日本人としては初めて、パリ国立ロダン美術館で個展を開催しました。

「ジーンズ・夏」作：佐藤 忠良

腰かけた女性が、足先に手を伸ばした姿。作者は、そのかたちから生まれる有機的フォルムの中に生命の鼓動を表現

「フォーム」作：千野 茂

輝く太陽、爽やかな風を感じさせる少女の像。この作品だけ色が少し違いますが、実はこれが本来の「青銅」の色。清々しい夏の1ページを表現するため、着色をしなかったのだろうと予想します。

「夏」作：桑原 巨守

春日部駅西口側

1人の少女が、市の鳥「ユリ カモメ」に守られながら、大空を高く自由に飛んでいるイメージを表した作品。市役所の引っ越しの際、この彫刻も一緒に引っ越し

「大空」
作：加藤 豊

「収穫祭」作：清水 啓一郎

猫は家族を、りんごは大切な人を思う気持ちを表現しています。春日部に帰る人も、これから出かける人も、いつでもそっと見守っています。

市役所

春日部郵便局

中央一丁目

コラム

ここで紹介した社会教育課が所管するもの以外にも、市内のいろんなところにたくさんの彫刻があります。ぜひ探してみてください！
そのひとつひとつにドラマがあり、作者の思いがあり･･･。人によって、いろいろな感じ方があると思います。皆さまの目で直接見て、その物語を感じていただけたら幸いです。

そこで得た疑問や不思議などについては、ぜひ社会教育課までご連絡ください♪

忙しい毎日だからこそ、自分自身を見つめ、真の自分に返るため、彫刻の前で足を止め、その一時を感じてほしいとの気持ちが込められた作品。

「道程」
作：伊藤 正人

春日部駅